

Business Report

▶ 株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日までの1年
- 定時株主総会 毎年6月
- 基準日 定時株主総会 3月31日
期末配当 3月31日
中間配当 9月30日
その他必要がある場合、あらかじめ公告する一定の日
- 株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社
- 同連絡先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
TEL 0120-782-031 (フリーダイヤル)
- 公告の方法 電子公告により行う
公告掲載URL <http://www.teikokudenki.co.jp/>
(ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。株主名簿管理人（三井住友信託銀行）ではお取扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、上記特別口座の口座管理機関（三井住友信託銀行）にお問合せください。
3. 未受領の配当金につきましては、三井住友信託銀行本支店でお支払いいたします。

【特別口座の口座管理機関の変更に関するご案内】

平成28年6月30日をもって、特別口座の口座管理機関を三菱UFJ信託銀行から三井住友信託銀行に変更いたしました。

株式会社 帝国電機製作所 〒679-4395 兵庫県たつの市新宮町平野60番地
TEL 0791-75-0411 (代表)



株式会社 帝国電機製作所

[証券コード：6333]

株主の皆様へ

第114期 中間報告書

平成29年4月1日から平成29年9月30日まで



代表取締役
社長執行役員 宮地 國雄

成長を加速してまいります。
事業環境の回復を追い風に、

Q 当第2四半期連結累計期間の業績についてお聞かせください。

A 当社グループの当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高93億51百万円（前年同期比3.0%増）、営業利益9億13百万円（同22.7%増）、経常利益10億1百万円（同105.5%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益6億8百万円（同75.1%増）と、増収増益となりました。

売上については、主力のポンプ事業は、国内市場においては、当社の主力顧客である石油化学メーカーが、好調な業績を維持する中で設備更新を進めていることから堅調に推移しており、海外市場においては、米国市場では前期の受注不振の影響等があったものの持ち直しの兆しがあり、中国市場においても売上が回復基調であることから全体としては堅調に推移いたしました。一方、電子部品事業の売上は減少いたしました。

また利益面について、主力のポンプ事業は、Hydrodyne(India) Pvt. Ltd.社ののれん償却等の費用が増加したものの、売上が増加したことに加え、原価低減等により粗利率が改善したこと等から、前年同期比で増益となりました。また電子部品事業は、売上が減少したものの、粗利率が改善したことにより、前年同期比で増益となりました。これらのことから、当第2四半期連結累計期間の業績は、期初計画を上回ることができました。

Q シェールガス関連の案件の動向はいかがですか？

A 北米において大きく注目されていたシェールガス関連の設備投資は、近年、原油価格が安値圏で長期にわたって推移していたため、新規のプラント建設案件が後ろ倒し、または白紙になる等、計画が見直しとなる状態が続いておりました。しかし、OPEC加盟国の減産が進んだことや原油需要の増加により、原油価格の持ち直しが続いており、足元では新規のプロジェクが増加傾向にあります。

シェールガス関連のエチレンプラントが増設されることで、北米でのエチレンの生産量は2022年までに日本全体の生産量の2倍以上にあたる約1.4千万トンの増強が見込まれております。さらに、北米ではその川下で展開されるエチレンを原料とした多くの石油化学誘導品をつくるための新たな設備投資も検討されており、当社のキャンドモータポンプへのさらなる需要拡大が期待できます。

新規増設されるエチレンプラントについては2017年後半から2022年にかけて稼動する計画となっているため、2018年以降、川下分野でのキャンドモータポンプの受注増加を見込んでおります。

Q 今後の見通しを簡単に教えてください。

A 足元の市場環境は、国内市場においては石油化学メーカー各社が好調な業績を背景に、老朽化設備の更新や高付加価値製品への投資を進めていることから当社製品への需要は堅調に推移しており、この状況は当面続くものと考えられます。

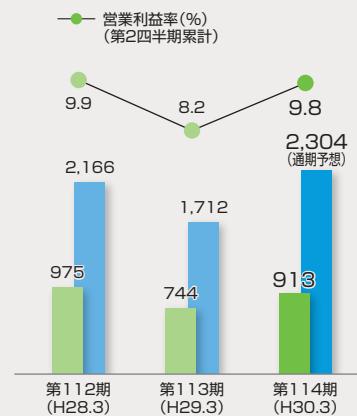
一方、海外市場では、特に米国において、シェール由来の大型エチレンプラントが稼動を開始しており、エチレンを原料とした川下分野のプラント建設計画がよい動き出す可能性が高まっております。当社のポンプは石油化学における川下分野で使用されることが多いことから、今後の受注増加を期待しております。

また、石油化学業界以外においても、主に韓国・中国・台湾等において半導体メーカーがスマートフォンの高性能化やIoT関連分野の進展による半導体需要の増加により設備投資を活発化させており、半導体の洗浄工程で使用される超純水の製造・移送等で使用されるキャンドモータポンプの需要が高まっていることにも期待が持てます。

■ 売上高



■ 営業利益／営業利益率



■ 経常利益



■ 親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益



■ 第2四半期累計 ■ 通期 (単位：百万円)

(注)・在外子会社の収益及び費用は、従来、それぞれの決算日の直物為替相場により円貨に換算しておりましたが、第113期より期中平均相場により円貨に換算する方法に変更しております。なお、第112期につきましても遡及適用した金額を記載しております。
・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

セグメント別事業の概況

ポンプ事業



売上高構成品



売上高



ポンプ事業は、国内市場では、冷凍機・空調機器モータポンプ、電力関連機器モータポンプ等が減少したものの、ケミカル機器モータポンプ等が増加いたしました。中国市場では、ケミカル機器モータポンプ、電力関連機器モータポンプ等が増加いたしました。また米国市場では、冷凍機・空調機器モータポンプ等が増加したものの、ケミカル機器モータポンプが減少いたしました。

その結果、売上高は81億32百万円（前年同期比5.6%増）、連結売上高に占める割合は87.0%となりました。

また、営業利益は、Hydrodyne(India) Pvt. Ltd.社ののれん償却等の費用が増加したものの、売上の増加並びに粗利率の改善等により、7億92百万円（同15.6%増）となりました。

電子部品事業



売上高構成品



売上高



電子部品事業は、売上高は10億3百万円（前年同期比14.8%減）、連結売上高に占める割合は10.7%となりました。

また、営業利益は、粗利率の改善等により、76百万円（同68.8%増）となりました。

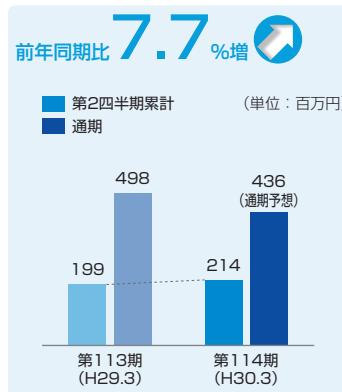
その他



売上高構成品



売上高



その他は、売上高は2億14百万円（前年同期比7.7%増）、連結売上高に占める割合は2.3%となりました。

また、営業利益は、売上の増加並びに粗利率の改善等により、44百万円（同229.2%増）となりました。

Topics

① 会社案内をリニューアル

この度、当社本社工場の全面的な建て替えに伴い、会社案内（冊子・映像）をリニューアルいたしました。

新しい会社案内では、当社の強みである「技術力」「生産力」「対応力」を軸に、安心と信頼をお客様に提供する技術集約型企業としての当社の魅力を紹介しています。

リニューアルした会社案内映像については当社ウェブサイトにてダイジェスト版を公開しておりますので、是非ご覧いただければ幸いです。

今後も当社への理解を深めていただけるよう精一杯努力してまいりますので、どうぞよろしくお願いたします。

アドレスはこちら

<http://www.teikokudenki.co.jp/company/movie.html>

帝国電機 会社案内映像

検索



② 第1回 関西火力発電EXPOに出展



平成29年9月20日～9月22日の3日間、インテックス大阪にて開催された「第1回 関西火力発電EXPO」に出展いたしました。

当社では現在、火力発電分野への参入に力を入れており、発電所のボイラに適した超大型ボイラ循環ポンプや薬品注入用のダイヤフラムポンプ等を中心にPRを行いました。それ以外にも平成29年3月より提供を開始しました無線遠隔監視システムで、ポンプの運転状態やベアリングの摩耗状況等をリアルタイムに遠隔監視する実演を行いました。

その結果、電力関係者様をはじめとして、3日間で250名以上のお客様に当社ブースを訪問していただく等、大きな注目を集めました。

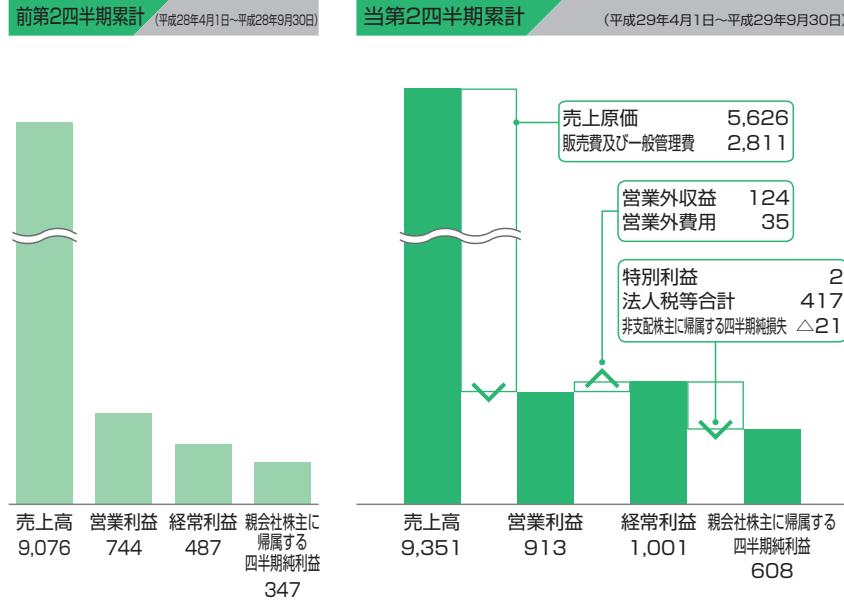
今後も当社キャンドモータポンプの裾野を広げるべく、積極的に営業活動を行ってまいります。

開催期間中は多数のお客様にご来場いただきまして、誠にありがとうございました。

四半期連結財務諸表

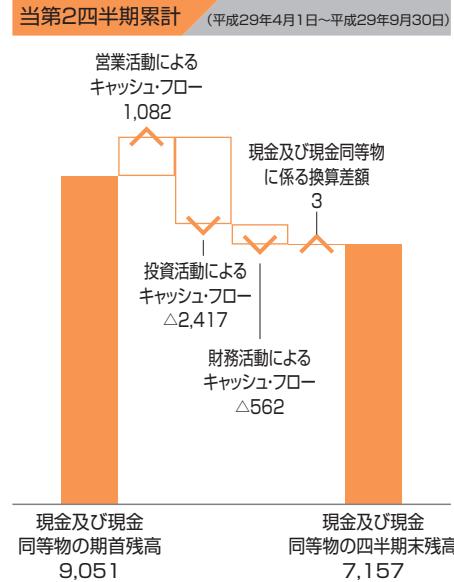
▶ 四半期連結損益計算書

(単位：百万円)



▶ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)



▶ 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	前期末 (平成29年3月31日現在)	当第2四半期末 (平成29年9月30日現在)
資産の部		
流動資産	21,464	19,832
固定資産	11,572	12,507
有形固定資産	9,142	9,009
無形固定資産	436	1,230
投資その他の資産	1,994	2,267
資産合計	33,037	32,339
負債の部		
流動負債	6,514	5,468
固定負債	1,736	1,945
負債合計	8,250	7,413
純資産の部		
株主資本	23,598	23,652
その他の包括利益累計額	1,188	1,202
非支配株主持分	-	71
純資産合計	24,786	24,925
負債純資産合計	33,037	32,339

会社情報 / 株式情報

▶ 会社概要 (平成29年9月30日現在)

社名 株式会社帝国電機製作所
 TEIKOKU ELECTRIC MFG. CO., LTD.
 設立 昭和14年9月12日
 資本金 31億1,811万8,450円
 従業員数 連結 1,270名 単体 319名
 本社 〒679-4395
 兵庫県たつの市新宮町平野60番地
 Tel. 0791-75-0411 (代表)
 ホームページ <http://www.teikokudenki.co.jp/>

▶ 役員 (平成29年9月30日現在)

代表取締役社長執行役員	宮地 國雄	取締役 (監査等委員)	田中 久継
取締役専務執行役員	中村 嘉治	取締役 (監査等委員)	曾我 巖
取締役常務執行役員	白石 邦記	取締役 (監査等委員)	林 晃史
取締役執行役員	大川 貴広	執行役員	加減 孝司
取締役執行役員	舟橋 正晴	執行役員	清水 学敏
取締役執行役員	頃安 義弘	執行役員	山本 憲豪

(注) 田中久継氏は常勤監査等委員であります。
 ・曾我 巖及び林 晃史の両氏は社外取締役であります。

▶ グループ会社 (平成29年9月30日現在)

国内子会社

- 株式会社協和電機製作所
- 上月電装株式会社
- 株式会社帝伸製作所
- 株式会社平福電機製作所

海外子会社

- TEIKOKU USA INC.
- 大連帝国キャンドモータポンプ有限公司
- * 台湾帝国ポンプ有限公司
- * 無錫大帝キャンドモータポンプ修理有限公司
- * 済南大帝キャンドモータポンプ修理有限公司
- * 成都大帝キャンドモータポンプ修理有限公司
- TEIKOKU SOUTH ASIA PTE LTD.
- TEIKOKU ELECTRIC GmbH
- TEIKOKU KOREA CO.,LTD.
- Hydrodyne (India) Pvt.Ltd.

(注) *は大連帝国キャンドモータポンプ有限公司の子会社であります。

▶ 株式の状況 (平成29年9月30日現在)

発行可能株式総数 69,200,000株
 発行済株式の総数 20,400,138株
 株主数 4,048名

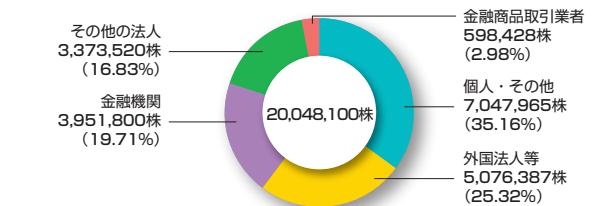
▶ 大株主 (上位10名)

株主名	持株数	持株比率
三菱電機株式会社	2,286,400株	11.40%
KBL EPB S.A. 107704	1,073,701株	5.36%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,047,400株	5.22%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	590,700株	2.95%
刈田耕太郎	527,444株	2.63%
徳永耕造	515,400株	2.57%
INTERTRUST TRUSTEES(CAYMAN)LIMITED SOLELY IN ITS CAPACITY AS TRUSTEE OF JAPAN-UP	425,500株	2.12%
江頭憲治郎	419,952株	2.09%
帝国電機取引先持株会	416,800株	2.08%
株式会社三井住友銀行	410,000株	2.05%

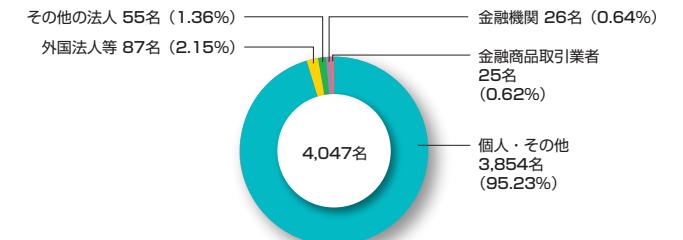
(注) 持株比率は自己株式(352,038株)を控除して計算しております。

▶ 株式分布状況

■ 所有者別株式分布状況



■ 所有者別株主分布状況



(注) 自己株式(1名352,038株)を控除しております。